

二〇二一年度 選抜試験問題

国語総合 (試験時間 60分)

※ 問題は指示があるまで開けないでください。

【注意事項】

- 1 解答用紙に受験番号・氏名を記入してください。
- 2 問題冊子は12ページで、解答用紙は別になっています。不良の場合は手を挙げて知らせてください。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
- 4 試験終了後、問題冊子は各自持ち帰ってください。

□ 1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答はすべて所定の解答欄に記しなさい。

文学への想い

この表題をくわしくいえば、「私の絵本における文学への想い」である。

私はある授賞式の席で「私は作家の人に、絵本のための原稿は、視覚しかくということを考えて、1 視覚文学、絵本文学をかいいただきたいとお願いしている」といったことがある。絵本というものは視覚を前提としている。絵本における文学は絵と一体となって、視る文学になっていると思う。視覚文学というときみようなことばに聞こえるかもしれぬが、ア 戯曲はみるということ
を前提にした文学だと思う。

浜田広介さんの『むくどりのゆめ』は、名作ということ、よく絵本化されるが、内容は、帰らぬ母鳥をしたう子鳥の心理的なものである。だれがかいてもむくどり父子が、ただあつちを向いたり、こつちを向いたりしているだけで、みるおもしろさがない。絵本はみるものという基本的な問題が忘れられているといういい例である。こうした心理的な内容のものは、絵本でなく一、二枚の絵がつくだけの単行本のほうが、文も絵も生きてくるのではないかと思う。

絵本は文学を説明的に絵になおすところからはじまったが、現在は、文と絵で十になるといふ解釈に変わってきている。つまり文と絵が、たがいに響きあつて場面を構成してゆくという形に変わってきていると思う。どうも文即絵という考えがもたれやすいが、文と絵とは発想もちがうと思う。文を絵にすると、かなりちがったものになる。かつて A 志賀直哉が、伊丹万作いたみまんに『赤西蠣太』を映画化させてガツカリして、以後 イ 一切、自作の映画化はさせないといった。文はあくまで文で、各自がその文によってイメージをひろげるところに醍醐味だいごみがある。それが説明的な絵になると、作者はかならずガツカリする。私は、映画で原作を忠実にとっているのがあるが、どうかと思う。むしろ、はなれてその原作のもっているものを、ちがった形で表現することのほうが、よいのではないかと思う。私の『スーホの白い馬』は原作にかいてなくとも、全編地平線を強調し、ドラマチックな構成で、主題のイメージアップを B 心した。最近、松本清張まつもとせいちょうさんが、自作の映像化にあたって自らシナリオを

かき「視覚を考慮した」といわれていたが、カダトウであろう。

人形の辻村ジュサブローさんの人形劇に、泉鏡花の『海神別荘』というのがある。これは華やかさもあり、幻想性もあり、視覚的な楽しさが、いっぱいあった。これがおもしろかったので、つづいて辻村さんの人形劇をみにいった。たしか泉鏡花の『葛飾砂子』だったと思うが、これはまったくおもしろくない。人物に動きもなければ変化もなく、まったく視覚的なドラマ性がなく、退屈きわるものであった。だが、スピーカーを通して流れるろうろうたる語りは、これはまったくすばらしいものであった。鏡花のリズミカルな美文を女性がキロウドクしているのだが、なんとも耳に心持ちよいものであった。このちがいはなんであったか。これは前者の『海神別荘』は、視覚を前提としてかかれた戯曲であり、後者は視覚化に最も不適当な文学であつたためであると思う。

視覚化ということで、今西祐行さんの『肥後の石工』の舞台化で感じたことがある。全編姉弟が仇を追う話だったと思う。(所蔵の本がみあたらず、少々ふたしかな点があるが) その姉弟が仇をねらう最大の原因を、主役の人が語るくんだりがある。これは問題が殺人の話だから、ヒソヒソ話でやる。だが、舞台の近くにいる人には聞こえるが、はなれたところの人たちには聞こえない。また、セリフというものは、聞きのがすこともある。この原因が観客にシッカリわかっていないと、あとに続く姉弟が仇としてねらうドラマが、もりあがってこない。原因というものはなんらかの形で、観客に念入りに、視覚的にシカとわからせておかねばならない。この点、絵本でも同じである。

私は、絵本は共同制作という解釈から、はじめに編集者、作家、画家という三者会談をやつて、作家にクガイリヤクをかいってもらう(決定稿はもらわない)。それによって作画プランの縮尺版をつくり、この段階で三者会談をやつて検討し、よしとなったら本描きにはいる。できた原画を三者共同で点検し、この原画によって作者に文を決定的なものにしてもらう。私は編集者および作家の意見を尊重し、それを充分取り入れるように考慮する。しかし、絵としてなりたたなかつたり、効果的でなかつたりする分は、相談のうえ、遠慮なく変更させてもらう。絵本は最後的には絵が前面にでてくる仕事なので、そうさせてもらう。

私は、舞踊劇の舞台美術をいくつつかやつたが、これは劇作家の北條秀司さんの舞踊劇の美術を担当したときのことであ

る。北條さんは「強情秀司」といわれるほど、自分の作品に対してきびしく譲らない人だが、「細かいところは適当にやってく下さい」と舞踊家にまかせていた。美術担当の私も、衣装・背景・道具小道具のデザインも一通りやって、あとは舞踊家のやり方のように、変更できるように、余白を残してまかせ。なぜそうするかを具体的にいうと、こういうことになる。それは時代劇で、部屋の中に富山の藁袋を下げる場面がある。その位置で美術担当の私と、演出の北條さんとの意見がくいちがった。しかし、それはつきつめてゆけば、決定づけるのは舞踊家以外にない。踊りながらその袋をとる舞踊家の踊りの振り付けのありようと、舞踊家の背の高さによってきまるのである。これは最後的には観客と接する「エンジャ」にまかせるよりしかたない。この点、視覚的な絵本に似ていると思う。

今、日本の神話『やまたのおろち』をかいている。取材旅行で「出雲へゆき、稲田神社を訪れ、コシヤムシヨに上がった。宝物などをみせてもらって、フト床の間をみると、強風に袖をひるがえし、恐怖の面の姫の立ち姿の軸が下がっている。これはまさしくオトリになって、おろちにおびえる稲田姫の像であった。ここでは、『古事記』にでてくる、スサノオに櫛に変身させられ、スサノオの髪にかくされたはずの姫が、『古事記』に背を向けて立っている感じである。神話として文学として、櫛に変えられ髪にかくれるというのは美しいが、視覚的な絵本では、オトリになっておびえる姫、闇をさくオ雷鳴、近づくおろちども、息を殺して剣をかまえるスサノオ——これははるかにドラマチックで、効果的である。これはぜひ使うべきと思ひ、私も『古事記』に背を向けて、これをかいた。

(赤羽末吉『新装版 私の絵本ろん 中・高生のための絵本入門』平凡社ライブラリー902より)

※赤羽末吉 (1910-1990) 昭和時代後期の絵本作家。

明治 43 年 5 月 3 日生まれ。昭和 36 年「かさじぞう」でおそいデビューをはたす。日本の伝統的な墨絵、大和絵、大津絵の画法をとりいれ、独特な昔話絵本をつくりだした。55 年日本人初の国際アンデルセン賞画家賞。平成 2 年 6 月 8 日死去。80 歳。東京出身。代表作に「そら、にげろ」「スーホの白い馬」など。

(講談社『日本人名大辞典』)

問一 二重傍線部ア～オの漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

問二 二重傍線部カ～コのカタカナに相当する漢字を楷書で書きなさい。

問三 二重傍線部ア「戯曲」の文中での意味として、最も適切なものを次から選び番号で記しなさい（以下、選択肢問題は、記号・番号で記入すること）。

- ① 演劇
- ② ドラマ
- ③ 脚本
- ④ 文学として鑑賞できる台詞と演出・演技の指定
- ⑤ 楽曲や踊りなどの見ごたえのある舞台

問四 傍線部A「志賀直哉」について答えなさい。

- ① 作家の氏名の読みを書きなさい。
- ② 作家の作品を次から選んで、2つ答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|--------|---|-------|---|-----|---|-------|---|--------|
| ア | 無法松の一生 | イ | 高野聖 | ウ | 砂の器 | エ | 城の崎にて | オ | ヒロシマの歌 |
| カ | 小僧の神様 | キ | ゼロの焦点 | ク | 婦系図 | ケ | 一つの花 | コ | 國土無双 |

問五 傍線部B「心した(する)」の文中での意味として、最も適切なものを次から選び番号で記しなさい。

- ① 誇張した
- ② 心配した
- ③ 気を配った
- ④ 計画した
- ⑤ 喜んだ

問六 傍線部C「くだり」の文中での意味として、最も適切なものを次から選び番号で記しなさい

- ① 山場
- ② 個所
- ③ 愁嘆場
- ④ 独壇場
- ⑤ せりふ

問七 北條秀司が、「北條」の語呂合わせで、二重傍線部ウのように「強情」秀司といわれた時の「強情」の意味として、最も適切なものを次から選び番号で記しなさい。

- ① 意地悪
- ② 意固地
- ③ 頑かたくな
- ④ 一徹
- ⑤ 片意地

問八 傍線部1「視覚文学」を説明した次の文で、**最も不適切なものを次から選び番号で記しなさい。**

- ① 絵と一体となっている文学
- ② 最後に絵が全面にでてくる文学
- ③ 言葉だけで伝えようとする文学
- ④ 一、二枚の絵が添えられるだけで生き生きと心理が伝わる文学
- ⑤ 文字で書かれていても、最終的には目で見えるものとして完成する文学

問九 次の選択肢から、問八のように筆者のいう「視覚文学」と呼ぶことができる作品を選びなさい（該当すると思うものはいくつでもあげること）。

- ① 浜田広介『むくどりのゆめ』
- ② 人形劇『海神別荘』
- ③ 人形劇『葛飾砂子』
- ④ 映画『赤西蠣太』
- ⑤ 赤羽末吉『スーホの白い馬』

問十 傍線部2「この点」を説明した次の文のうち、最も適切なものを次から選び番号で記しなさい。

- ① 文学が舞台化されるとき、注意という点
- ② 念入りにシカとわからせる伝え方をする点
- ③ 観客を相手にしていることを忘れない点
- ④ 遠いところにいる人にも伝える点
- ⑤ ドラマをもちあげないといけない点

問十一 傍線部3「この点」、視覚的な絵本と似ているとありますが、傍線部3「この点」を説明した次の文から、最も適切なものを選び番号で記しなさい。

- ① 三者の合同作業でありながら、視覚文学であることを重んじる点
- ② 編集者、作家と検討するが、絵としてなりたない、効果的でないものは、変更する点
- ③ 舞踏家、絵本で言えば、作家・画家以外の編集者に任せる点
- ④ 劇作やデザインは行うが、観客に接し、見せる舞踏家を重んじ、任せる点
- ⑤ 舞踏家の振り付けのありようと背の高さが重要になる点

問十二 傍線部4「『古事記』に背を向けて、これをかいた」とは、どのようなことを指していますか。最も適切なものを次から選び番号で記しなさい。

- ① 強風に袖をひるがえし、恐怖の面の姫の立ち姿の軸にならう
- ② 強風に袖をひるがえし、恐怖の面の姫の立ち姿の軸に立ち向かう
- ③ 『古事記』の描写を軽んじる
- ④ 『古事記』の描写より、絵をドラマチックにする雷鳴を重視する
- ⑤ 『古事記』の描写より、出雲の伝承を重んじる

二 次の文の（ ）の箇所にとの語句を補えばよいのか、最も適当なものを、それぞれア～ウの中から選びなさい。

1 今まで教数のご（ア 教学 イ 教示 ウ 救援）をいただき、感謝しています。

2 会議は、後ほど隣室で行いますので、ご（ア 参集 イ 参列 ウ 参画）ください。

3 次の休みは、友人と京都を（ア 漫遊 イ 逍遙 ウ 行脚）する。

4 今度の公演について、新聞に（ア 選評 イ 書評 ウ 寸評）が載った。

5 この件では、彼の取り扱いに（ア 配慮 イ 苦慮 ウ 考慮）を欠いた。

三 次の1～5は、目上の人やあまり親しくない人に対する言い回しです。最も適切な表現をア～ウの中から選び、記号で答えなさい。

1 私は佐藤と申しますが、小島先生で（ア ごさいます イ あられます ウ いらっしゃいます）か。

2 私は、園長先生には（ア お会いになって イ 拝見して ウ お目にかかって）いません。

3 先生はこのことを前から（ア 伺って イ ご存じで ウ 拝聴して）いらっしゃいました。

4 母は、岡山に（ア）うかがい イ いらつしやい ウ まいり）ました。

5 申込用紙を（ア）お取りして イ ご拝受 ウ お取り）ください。

四

次のカタカナにあてはまる漢字を、それぞれ後ろの語群の中から選び、記号で答えなさい。

1 小麦粉がハツコウしてパンになる。

2 十日に神戸をハツコウして横浜に向かう。

3 廊下に明るくハツコウがさしている。

4 青少年向けの雑誌をハツコウすることになった。

5 彼女は、ハツコウな過去を背負っている。

6 条約は、十一月三日からハツコウした。

7 夜になってもよく見えるように、ハツコウ塗料を塗った。

（ア）発行 イ 発向 ウ 発効 エ 発酔 オ 薄幸 カ 発光 キ 白光 ク 八絃

8 来年は、父の三シュウキだ。

9 オリンピックは四年シュウキで行う。

10 シュウキ大運動会は十月十日に開かれた。

11 高原の散歩でシユウキを十分吸ってリフレッシュした。
12 鼻をつくシユウキが漂っている。

(ア 秋気 イ 周期 ウ 集気 エ 終期 オ 秋季 カ 周忌 キ 臭気)

13 少年は母の涙にコウセイを誓った。

14 会社に勤めるなら福利コウセイに手厚いところがよい。

15 人気の出なかったこの本はコウセイの人々には愛読されることになる。

(ア 更生 イ 厚生 ウ 更正 エ 公正 オ 後生 カ 後世 キ 攻勢)

五

次の1～5の空欄に適当な漢字を入れて四字熟語を作りなさい。

(A) 漢字はア～コから選び、記号で答えなさい。また、(B) 正しい意味をa～gから選び、記号で答えなさい。

- 1 秋霜□日
- 2 秋風索□
- 3 十年一□
- 4 十年一□
- 5 終始一□

(ア) 日 イ 昔 ウ 烈 エ 月 オ 漠 カ 貫 キ 爆 ク 今 ケ 環 コ 冽

- a 空高く澄み渡った秋の季節。
- b 始めから終わりまで言動や態度が変わらないこと。
- c 移り変わりが激しいこと。
- d 生気を失い、うら寂しくなるさま。
- e 長年経っても変わらないこと。
- f 厳しく、また、厳かなことのたとえ。
- g すべてが完全に整っていること。

一

問十	問八	問五	問三	問二	問一
2	4	3	4	カ 妥当	ア ぎきよく
問十一	問九	問六	問四	キ	イ
4	2・5	2	① し が な お や	朗 読	い っ さ い
問十二		問七	②	ク	ウ ご う じ ょう
1		4	エ	概 略	エ
			カ	ケ	い ず も
				コ	オ ら い め い
				社 務 所	

問九は正解1つにつき4点だが誤答があれば1つ2点マイナスする

二〇二一年度 国語総合 解答用紙

氏名

受験番号

二

1
イ
2
ア
3
イ
4
ウ
5
ア

三

1
ウ
2
ウ
3
イ
4
ウ
5
ウ

四

11	6	1
ア	ウ	エ
12	7	2
キ	カ	イ
13	8	3
ア	カ	キ
14	9	4
イ	イ	ア
15	10	5
カ	オ	オ

五

B	A
1	1
f	ウ
2	2
d	オ
3	3
e	ア
4	4
c	イ
5	5
b	カ

3と4は入れかわっても/eと/cのセットであれば正解

1*5 1*5
5 5

1*15 1*5
15 5

1*5
5

1*5
5

35 4*3
12

4*3 3*3
12 9

3*4 2*5
12 10

2*5 2*5
10 10

65 135

--	--

--	--

--	--

--	--

--	--

--	--	--	--	--	--